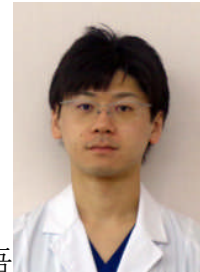


和歌山病院での研修を終えて



井中 将吾

僕は研修医 2 年目の 12 月に国立和歌山病院の呼吸器内科で地域研修をさせていただきました。

地域研修で和歌山病院を選んだ理由としては、拠点型結核相談支援センターということと一般的な呼吸器疾患に加えて結核も勉強できると思ったからです。結核患者と出会った時にどのように対応をすればよいのか、感染対策は実際どうやっているのか、と研修前は思っていたのですが、初日に南方院長が施設案内をしてくださった際に教えていただくことができました。そして、実際に自分が主治医で結核患者を担当させていただくことで、より理解が深まったと感じております。

和歌山病院での研修中、院長先生を始めいろいろなスタッフの方のレクチャーがありました。レントゲンの読み方や心電図の読み方、グラム染色した検体の見かた、など時間を設けて丁寧に教えていただくことができました。

また、和歌山病院での研修の特徴としては、外来診療をさせていただく機会があることが挙げられます。今までローテートした病院では外来診療を初診から入院までをさせていただいたことがなかった為、貴重な経験となりました。外来見学は何度もさせていただいたことがありましたが、やはり実際にやってみないとわからないことも多かったです。この主訴に対しての鑑別疾患はちゃんと挙げられているか、検査はどこまですればよいのか、など悩むことも多々あったのですが、その度に先生方に相談に乗っていただき非常に勉強になりました。

最後にはなりましたが、南方院長をはじめ指導していただいた先生方と病院スタッフの皆様、本当にお世話になりました。今回学んだことを活かせるよう、今後とも研鑽を積んでいきたいと思っております。1 か月間ありがとうございました。